



●オリジナル作品を作ろう！

2月26日、中央公民館で「手づくり教室」が行われました。昨年11月に発足した東海村文化少年団(佐藤康雄団長)の主催で行われたこの教室は、子どもたちに芸術や文化への興味を深めてもらうことを目的としたもの。この日は、62人の参加者が、桃の花を生けることができる壁掛け作りやカレンダー作りを実施。子どもたちは、壁掛けに折り紙で作ったひな人形を飾ったり、カレンダーに似顔絵や将来の夢などを書き入れていました。「楽しかった」「上手に作れた」などの声を、あちらこちらで聞くことができました。



●「経験したこと」「感じたこと」「考えた事」

2月15日、東海文化センターで「第11回東海村ボランティアセミナー」が行われました。今回、講師として招いたのは、アナウンサーを経て、現在は作家として活躍している落合恵子さん。「こころの居場所」と題して行われた講演会では、落合さんがこれまでに、「経験したこと」「感じたこと」「考えたこと」を披露。「老人は、もっと尊敬されるべき」「福祉をもっと充実すべき」と話しながら、ボランティアと福祉について穏やかな口調で語る落合さんの一言一言に、来場者は大きくうなずくなど、心から賛同しているようでした。

●自信を持った子育てが良い子に育つ

2月17日、東海文化センターで「第27回東海村教育振興大会」が開催されました。これは、教育文化の発展を目的に、学校・社会教育に多大な功績を挙げた方々や、スポーツ・文化活動で優秀な成績を収めた小中学生の表彰を行うもので、今年も多くの方々が表彰状等を贈呈されました。また、長田百合子さん(エデュケーションライター)を講師に迎えて、「親がかわれば、子どももかわる」と題した講演会も開催。「親は自信を持って子育てをする」といった、長田さんの飾らない言葉に、満員の聴衆は耳を傾けているようでした。



●全国で一番早い鳩を飼育！

1月28日、社団法人日本鳩レース協会(東京都)で、2005年度日本鳩レース総合表彰式が行われ、「第1回菊花賞レース(500キロメートル)」(平成17年末開催)で全国優勝をした永山清さん(舟石川在住)が表彰されました。鳩レースとは、同一地点から同時に放鳩し、どの鳩が速く帰るかを競うもので、レース開催年に生まれた“若鳩”のみを対象とした今大会の放鳩数は約12万羽。「優勝するとは思っていませんでした。すべては、鳩を飼育している先輩方のご指導のおかげです」と永山さんは笑顔で語ってくれました。



●多年にわたり文化財保護に貢献

2月9日、茨城県教育委員会表彰が埴千里さん(村松在住)に贈られました。これは、村の文化財保護審議会委員として、多年にわたり文化財の保護に貢献した功績が認められたもの。埴さんは、村松山虚空蔵堂で寺務に就く傍ら、同寺で保管する村指定民俗文化財の「霊験木」や「鐘馗霊神絵馬」にまつわる伝説を参拝者に紹介したり、水戸八景の一つ「村松晴嵐」の碑を村指定記念物とする際に中心的な役割を果たすなど、その活動を精力的に展開。今回の表彰に、「皆さんのおかげです。感謝しています」と話してくれました。

●救急車のサイレンが聞こえても止めないで！

2月18日、舟石川コミュニティセンターで「乳幼児を守る普通救命講習会」が行われました。これは、乳幼児に対する応急手当を学ぶことを目的としたもの。「乳幼児の口には、トイレットペーパーのしんに入る物すべてが入ってしまうので、注意することが必要」「心肺蘇生は、救急車のサイレンが聞こえても続けること」など、異物除去法や心肺蘇生法を行う際の注意事項に、真剣に耳を傾ける参加者21人。「自分の子どもに何かあったらと思い参加した」という女性は、「とても勉強になりました」と話してくれました。



●簡単朝ごはん健康な食生活

2月22日、総合福祉センター「絆」で「パパッと簡単朝ごはん」と題した食育講演会が開催されました。これは、朝食の大切さや健康的な食生活を知ってもらうことを目的としたもの。講師に招いた村上祥子さん(料理研究家)は、朝食の重要性を説明するとともに、電子レンジを使ってご飯を炊いたり、さばのうま煮や肉じゃがなど全8品を手早く簡単に調理。参加者たちは、電子レンジから出てきた料理に驚きながらもそれを試食すると、「本当においしい」「家で作ってみたい」「とても参考になる」などと絶賛していました。